
香川大学ダイバーシティ&インクルージョンに 関する全学調査vol.2 結果報告書

1. 調査概要

- 1-1. 調査目的
- 1-2. 調査方法
- 1-3. 調査対象
- 1-4. 調査期間
- 1-5. 調査項目
- 1-6. 回答率

2. アンケート結果

- 2-0. 回答経験
 - 2-1. 回答者属性
 - 2-1-1 学生
 - 2-1-2 教職員
 - 2-2. D&I関連施策・施設の認知度
 - 2-3. D&Iに関する用語の理解度
 - 2-4. D&Iに関する教育や研修の受講経験
 - 2-5. D&Iに基づいた大学運営
 - 2-6. 男女共同参画に関する学内での差別的な言動の体験や見聞きしたことの経験
 - 2-7. 性の多様性の尊重に関する学内での人権侵害の体験や見聞きしたことの経験
 - 2-8. 障害者支援に関する学内での改善点
 - 2-9. 多文化共生に関する学内での差別的な言動を見聞きしたことの経験

3. おわりに

2023年8月



1. 調査概要

1-1. 調査目的

香川大学は、2021年10月に「D&I推進宣言」を行い、多様性を尊重し、誰もが活躍できるキャンパスの実現を目指している。本調査は、D&Iを推進していくために、全構成員（学生・教職員）を対象として、大学における課題を抽出し、今後の事業展開につなげることを目的として実施した。

1-2. 調査方法

Microsoft Formsを用いたオンライン調査

1-3. 調査対象

2023年6月1日時点で、在籍する学生及び教職員（非常勤教職員、再採用職員を含む）9,385名

1-4. 調査期間

2023年6月1日(木)～6月30日(金)

1-5. 調査項目

属性などの基本事項、D&I関連施策・施設の認知度、D&Iに関する用語の理解度、D&Iに関する教育や研修の受講経験、D&Iに基づいた大学運営など。この他、ガイドラインの4分野に沿って記述欄（非公開）を設けた。

1-6. 回答率

2023年6月30日までの回答を有効回答として分析した。

学生2,091票／回答率33%、教職員1,182票／40%

2. アンケート結果

2-0. 回答経験

本調査は、今回で2回目となるため、全学調査に対する経験をたずねた。学生は、回答者のうち74%、教職員は、58%が初めて回答したとしている。また、学生の12%、教職員の25%が2回目、学生の14%、教職員の17%がわからないと回答した。

2-1. 回答者属性

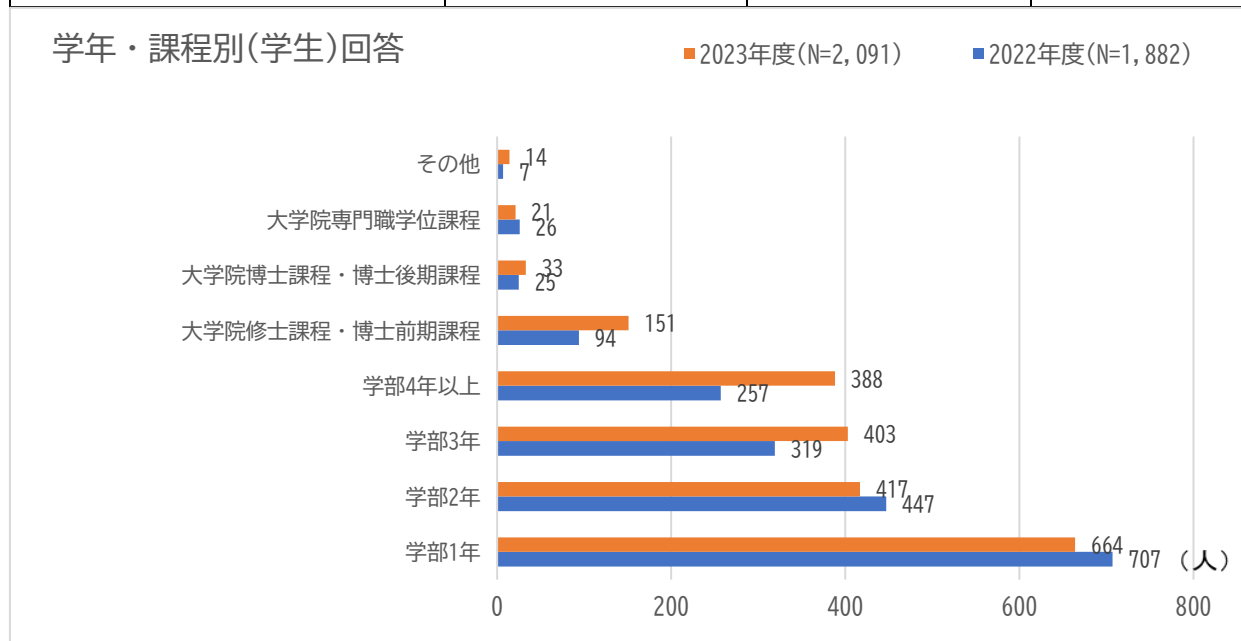
2-1-1 学生

【学年別回答状況】

学部学生は、学年では1年生の回答率（51%）が最も多く、学年が上がるにつれて回答率は低下している。

以下、図表内の（ ）内数値は、昨年度度数を示す。

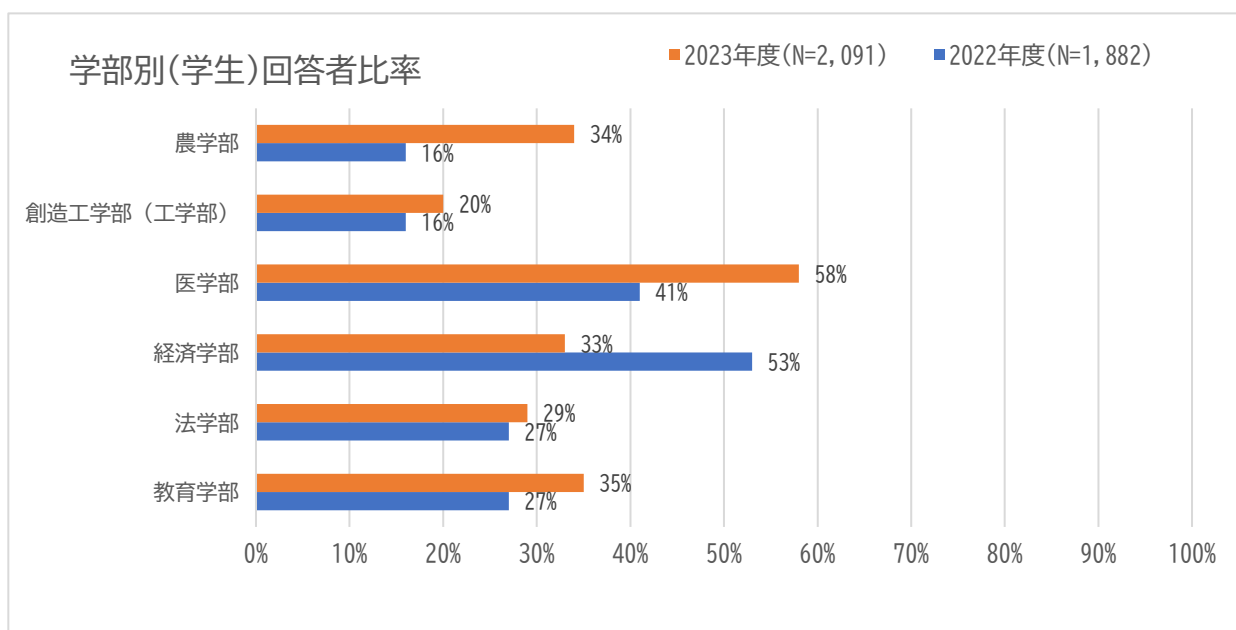
学年・課程別	現員	回答数	回答率
学部1年	1,295(1,280)	664(707)	51%(55%)
学部2年	1,298(1,304)	417(447)	32%(34%)
学部3年	1,317(1,300)	403(319)	33%(25%)
学部4年以上	1,719(1,780)	388(257)	23%(14%)
大学院修士課程・博士前期課程	583(436)	151(94)	26%(22%)
大学院博士課程・博士後期課程	143(207)	33(25)	23%(12%)
大学院専門職学位課程	66(114)	21(26)	32%(23%)
その他	—	14(7)	
合計	6,421(6,421)	2,091(1,882)	33%(29%)



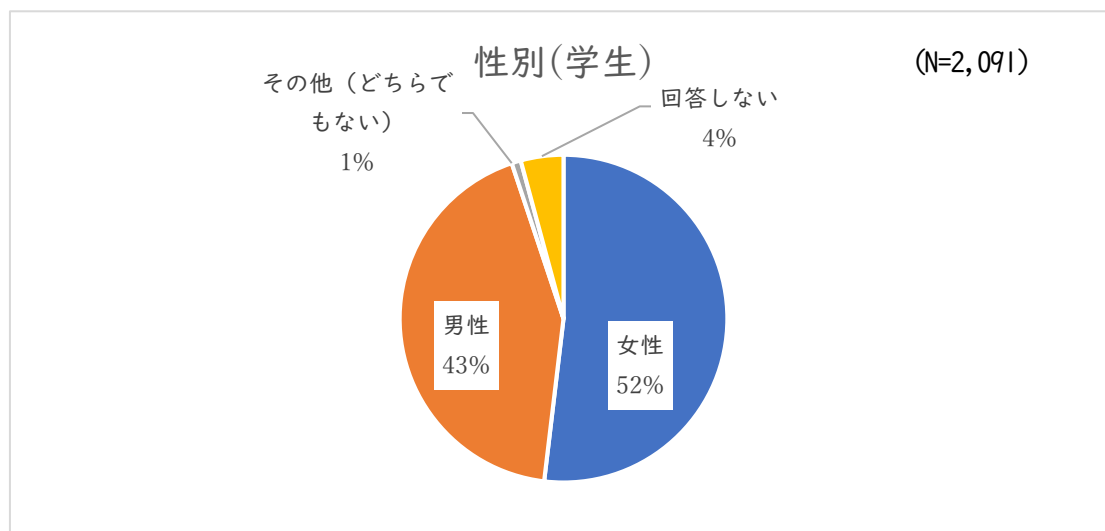
【学部別回答状況】

また、所属学部では医学部の回答率が58%と最も多く、次いで、教育学部（35%）、農学部（34%）であった。以下、図表内の（ ）内数値は、昨年度度数を示す。

学生の所属別	現員	回答数	回答率
教育学部	696(698)	243(188)	35%(27%)
法学部	686(680)	199(181)	29%(27%)
経済学部	1,118(1,134)	364(600)	33%(50%)
医学部	1,036(1,43)	596(424)	58%(41%)
創造工学部（工学部）	1,456(1,478)	295(230)	20%(16%)
農学部	637(631)	216(101)	34%(16%)
創発科学研究科	288	79	27%
法学研究科	2	0	0%
経済学研究科	2	1	50%
工学研究科	38	5	13%
医学系研究科	231	31	13%
農学研究科	128	15	12%
教育学研究科	37	24	65%
地域マネジメント研究科	66	14	21%
その他／空白	—	9(6)	—
合計	6,421 (学部のみ 5,664)	2,091 (学部のみ 1,730)	33% (学部のみ 31%)



性別は女性が回答者のうち52%を占め、男性が43%、その他（どちらでもない）が、1%、回答しないが、4%であった。



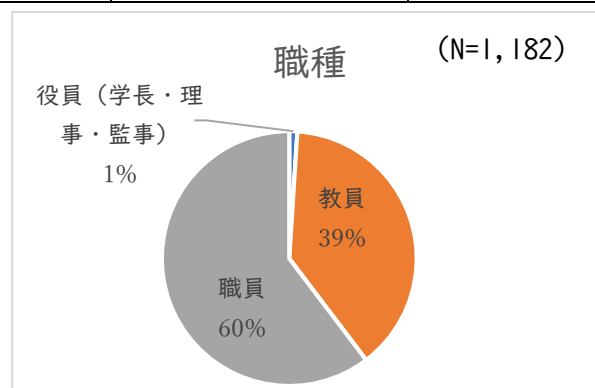
2-1-2 教職員

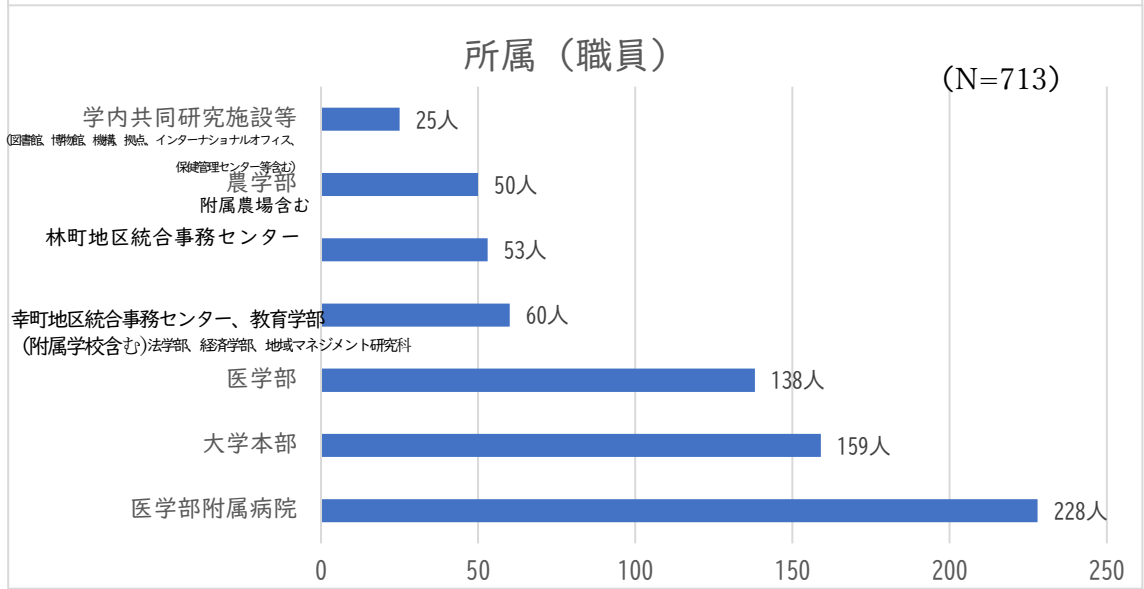
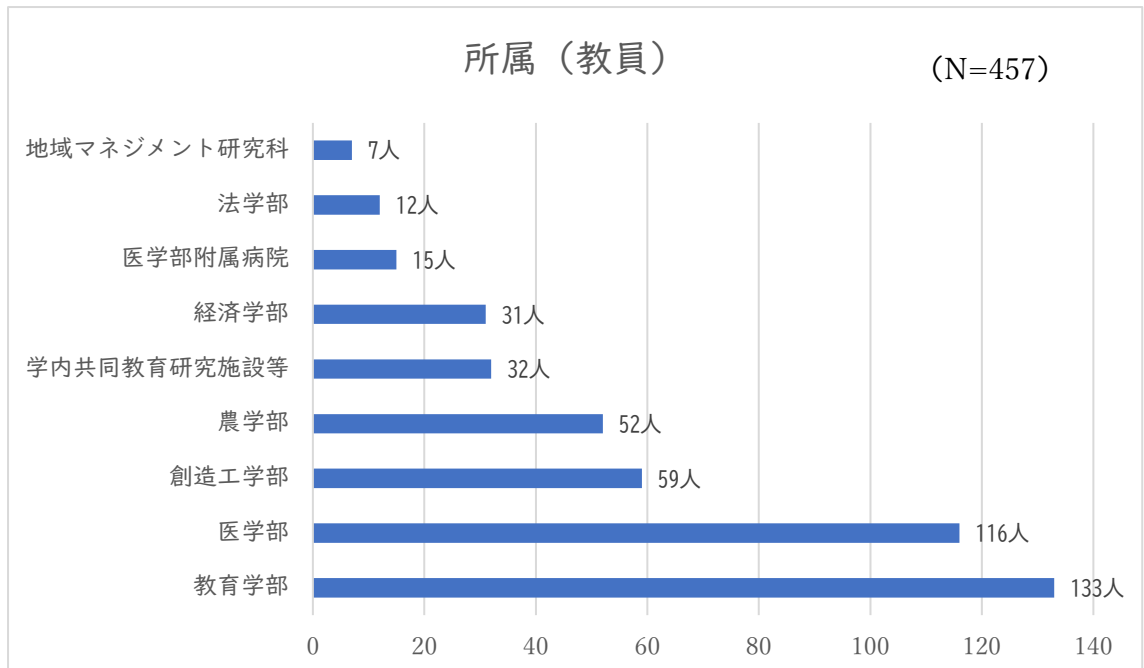
教職員の回答率は、役員（学長・理事・監事）は133%、教員は52%、職員は34%であった。

また、教員の所属では、農学部が85%と最も多く、次いで、創造工学部（69%）、経済学部（66%）であった。職員の所属では、林町地区統合事務センター・創造工学部の回答率が87%で最も多く、次いで農学部（85%）、幸町地区統合事務センター・教育学部・法学部・経済学部・地域マネジメント研究科（65%）であった。以下、図表内の（ ）内数値は、昨年度度数を示す。

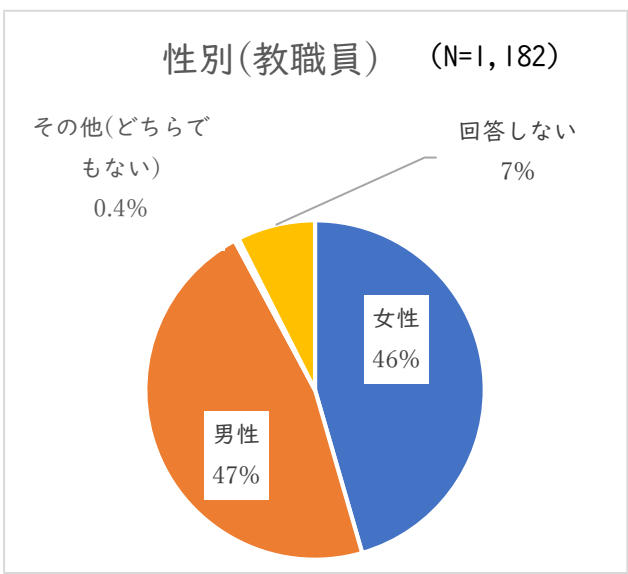
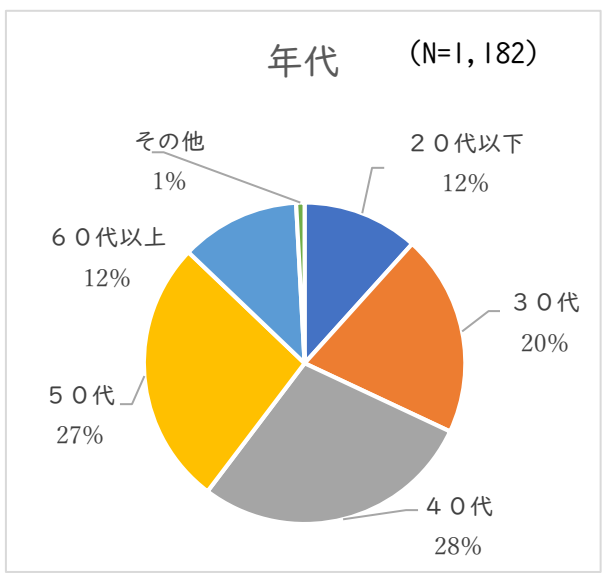
職種別	員数	回答数	回答率
役員（学長・理事・監事）	9	12	133%
（2022年度 役員・副学長）	(15)	(11)	(73%)
教員	879(1,065)	457(383)	52%(36%)
職員	2,076(1,813)	713(665)	34%(37%)
合計	2,964(2,893)	1,182(1,059)	40%(37%)
教員（部局別）	員数	回答数	回答率
教育学部（附属学校含む）	230	133	58%
（2022年度 附属学校除く,教育学部職員含）	(87)	(70)	(80%)
（2022年度 職員含む附属学校）	(173)	(87)	(50%)
法学部(2022年度 職員含む)	25(28)	12(16)	48%(57%)
経済学部(2022年度 職員含む)	47(51)	31(34)	66%(67%)
地域マネジメント研究科	15	7	47%

(2022年度 職員含む)	(17)	(11)	(65%)
医学部	192	116	60%
医学部附属病院	153	15	10%
創造工学部(2022年度 職員含む)	86(149)	59(50)	69%(34%)
農学部(附属農場含む)	61	52	85%
(2022年度 職員含む)	(114)	(63)	(55%)
学内共同教育研究施設等 (図書館、博物館、機構、拠点、インターナショナルオフィス、保健管理センター等含む)	70	32	46%
合計	879	457	52%
職員 (部局別)	員数	回答数	回答率
幸町地区統合事務センター、教育学部 (附属学校含む)、法学部、経済学部、地域マネジメント研究科	93	60	65%
(2022年度 幸町事務センターのみ)	(51)	(33)	(65%)
医学部	360	138	38%
医学部附属病院	1,172	228	19%
(2022年度 教員含む)	(1,829)	(521)	(28%)
林町地区統合事務センター、創造工学部	61	53	87%
農学部 (附属農場含む)	59	50	85%
学内共同教育研究施設等 (図書館、博物館、機構、拠点、インターナショナルオフィス、保健管理センター等含む)	63	25	40%
(2022年度 機構・センター等関係)	(121)	(29)	(24%)
大学本部	268(273)	159(145)	59%(53%)
合計	2,076	713	34%
(2022年度 教・職員合計)	(2,893)	(1,059)	(37%)





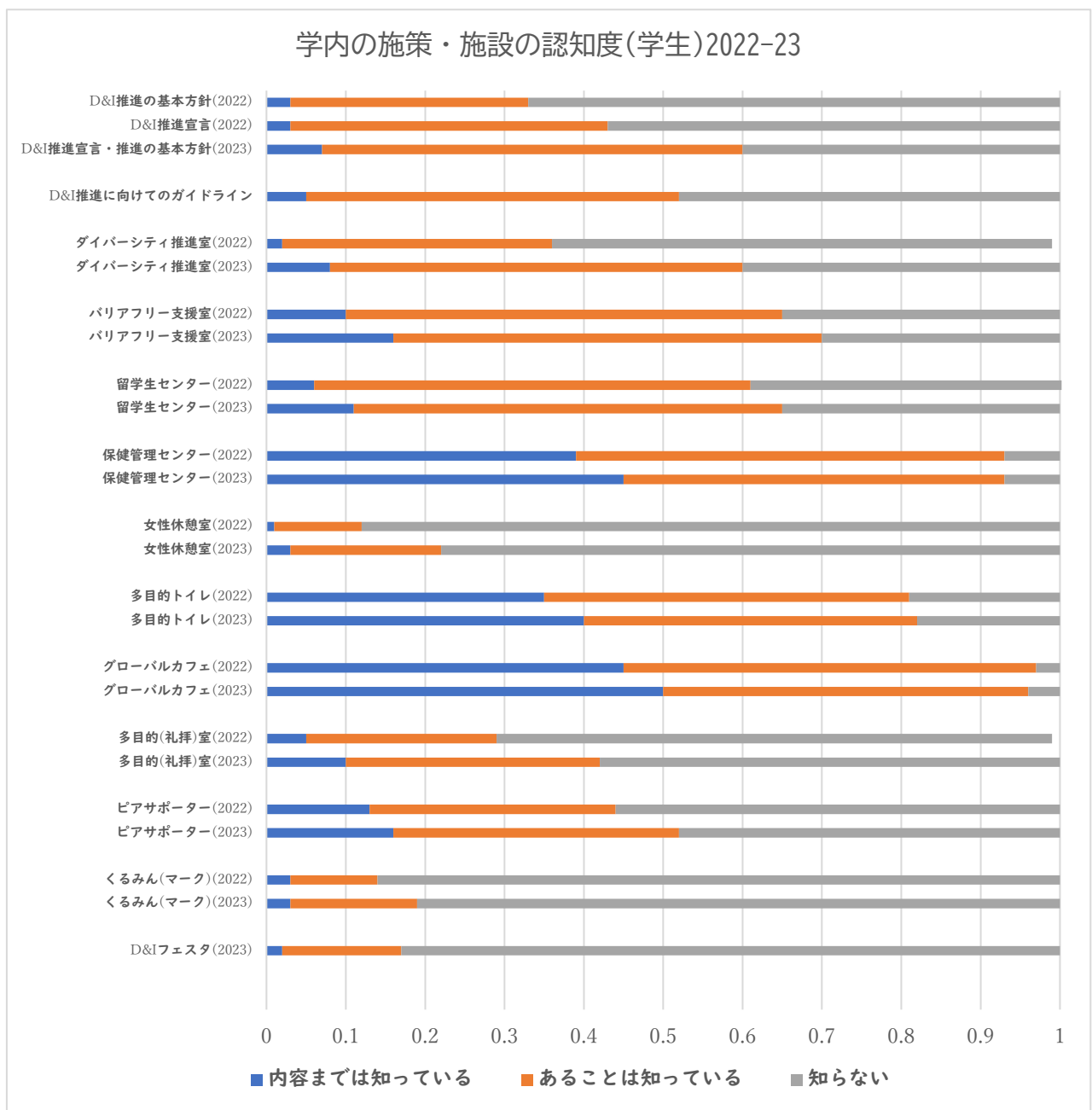
年代では、40代が最も多く、回答者のうち28%占め、50代（27%）、30代（20%）と続いている。性別は女性が回答者のうち46%を占め、男性が47%、その他（どちらでもない）が0.4%、回答しないが7%であった。



2-2. D&I関連施策・施設の認知度

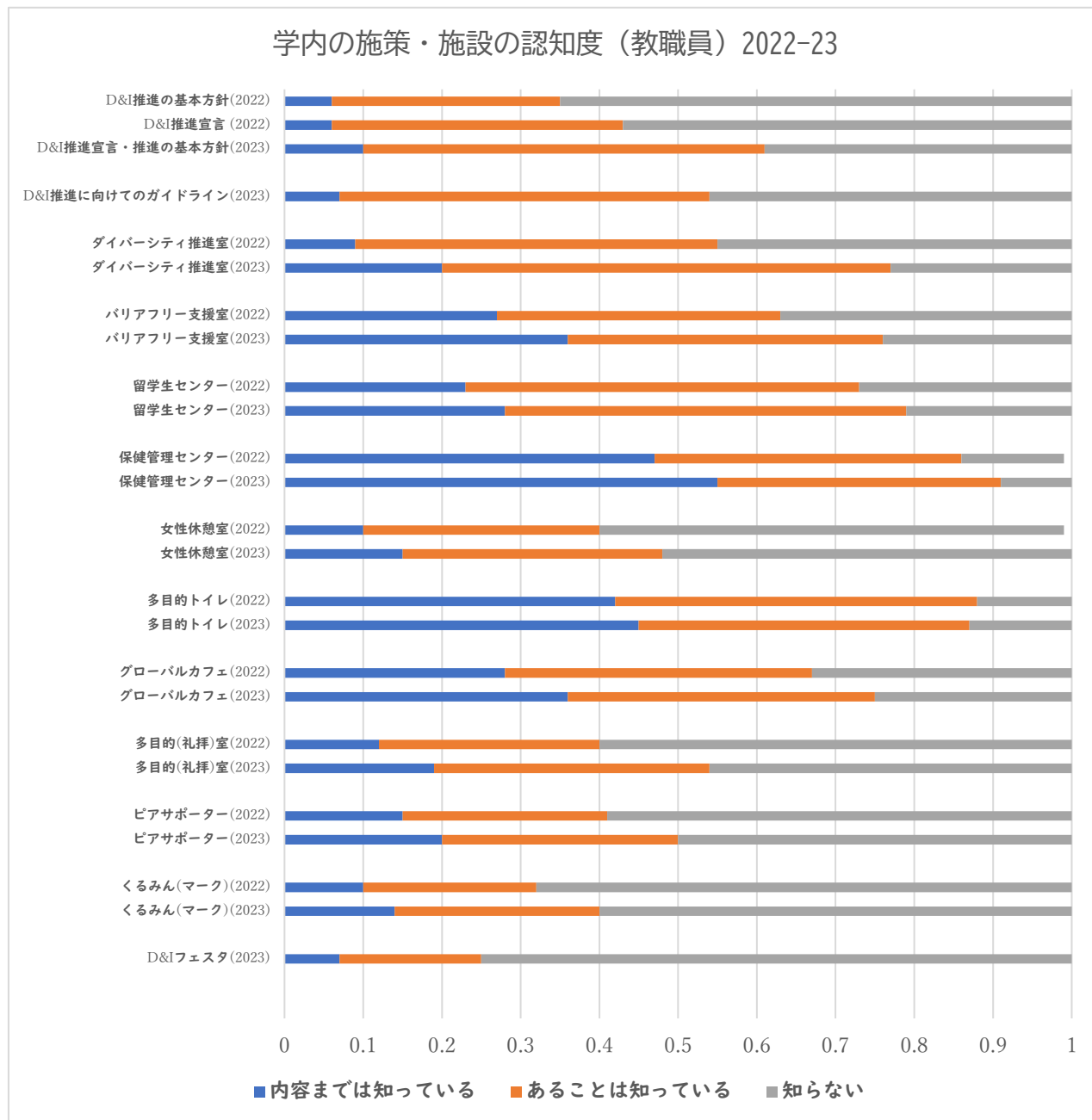
本学では、2021年10月に、D&I推進宣言を行い、D&I推進の基本方針を定め、2022年4月には、男女共同参画推進室をダイバーシティ推進室へ改組し、D&I推進委員会を設置して、D&Iに関する施策を実施している。2023年3月には、男女共同参画、性の多様性の尊重、障害者支援、多文化共生の4分野の「D&I推進に向けてのガイドライン」を定めたため、関連質問を追加した。D&I関連施策・施設の認知度について「内容まで知っている」「あることは知っている」「知らない」の3択でたずねたところ、学生の認知度（「内容まで知っている」「あることは知っている」の合計）で最も高かったのが、「グローバルカフェ」で、続いて「保健管理センター」、「多目的トイレ」、「バリアフリー支援室」、「留学生センター」となった。一方、認知度の低いものとしては、2022年度から開始した「D&Iフェスタ」、「くるみん（マーク）」、「女性休憩室」などであった。前回認知度が半数以下だったダイバーシティという用語を含む「D&I推進宣言・推進の基本方針」、「ダイバーシティ推進室」の認知度はいずれも半数を超えた。全体的な認知度は昨年度から上昇している。特に、ダイバーシティ推進室、女性休憩室、多目的（礼拝）室の認知度は大きく上昇している。

【学生】2022-23年度の比較



教職員の認知度では、「保健管理センター」が最も高く、「多目的トイレ」が続く。「留学生センター」、「グローバルカフェ」、「バリアフリー支援室」、「ダイバーシティ推進室」といったD&I関連施設は、いずれも4分の3以上が認知していた。「D&I推進宣言・推進の基本方針」の認知度は前回の3分の1以上から6割以上に上昇した。昨年度との比較では、全体的に認知度が上昇した。

【教職員】2022-23度の比較



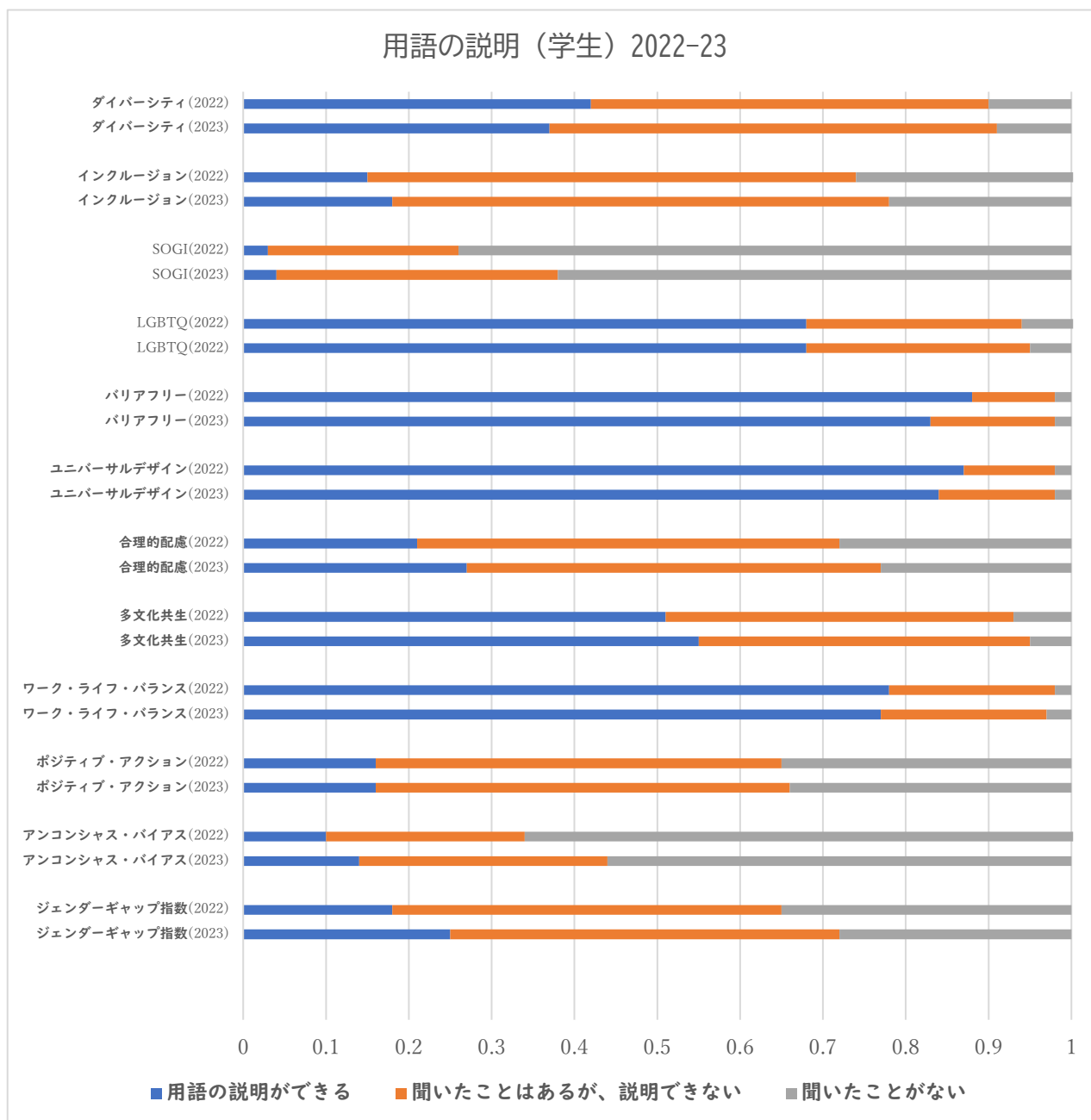
2-3. D&Iに関する用語の理解度

D&I関連用語の理解度について、「用語の説明ができる」「聞いたことはあるが、説明できない」「聞いたことがない」の3択でたずねた。

学生の理解度のうち、「用語の説明ができる」「聞いたことはあるが、説明できない」の合計が90%を超えているのは、「ダイバーシティ」、「LGBTQ」、「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」、「多文化共生」、「ワーク・ライフ・バランス」の6つである。中でも、「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」は「用語の説明ができる」との回答が8割を超えている。一方、理解度が低いのが「SOGI」、「アンコンシャス・バイアス」で、「聞いたことがない」と約6割が回答している。

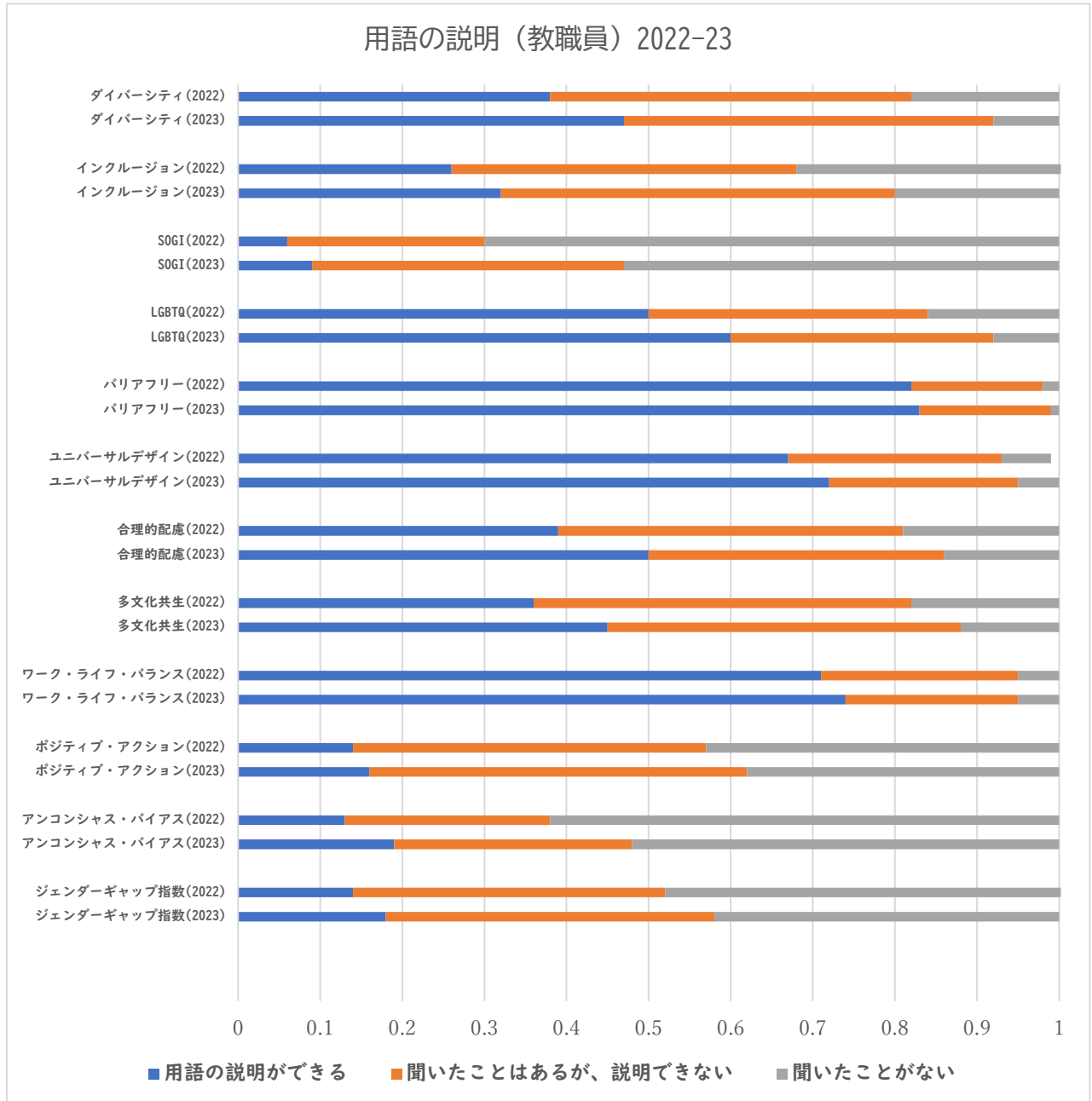
昨年度との比較では、全体的に「聞いたことがある」水準の認知は高まっているものの、「用語の説明ができる」水準の理解度は「ダイバーシティ」「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」で減少している。

【学生】2022-23年度比較



教職員については、「用語の説明ができる」「聞いたことはあるが、説明できない」の合計が90%を超えているのは、「ダイバーシティ」、「LGBTQ」、「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」、「ワーク・ライフ・バランス」の5つである。一方、理解度が低いのが、学生と同じく、「SOGI」、「アンコンシャス・バイアス」で、半数以上が「聞いたことがない」と回答している。昨年度との比較では、全体的に理解度は上昇しており、学生のような理解度の低減はみられない。

【教職員】2022-23年度比較



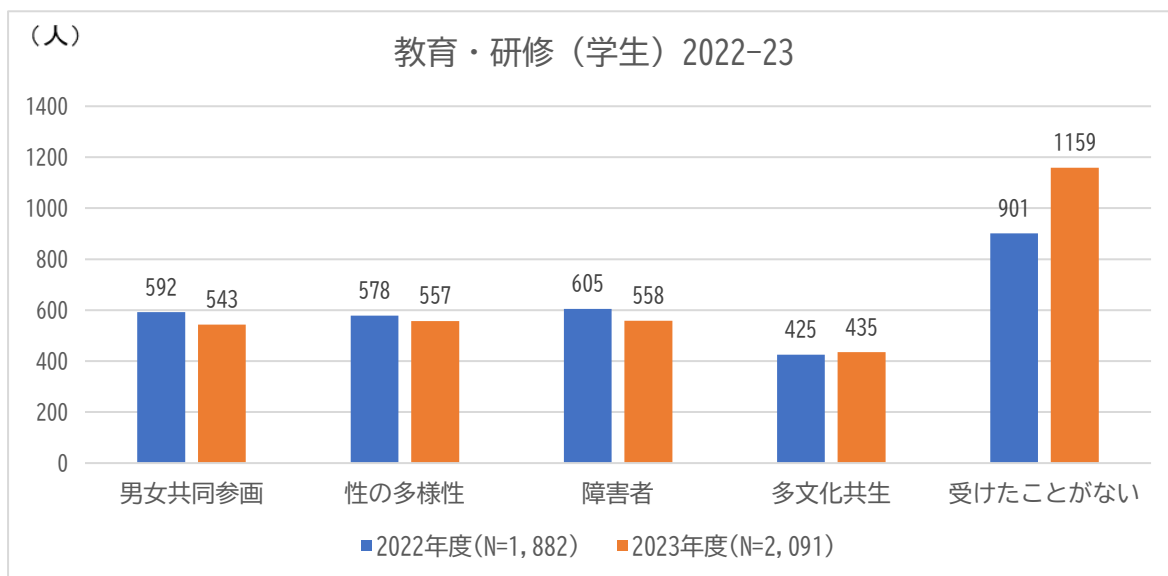
2-4. D&Iに関する教育や研修の受講経験

ダイバーシティ推進室では、2022年4月より「D&I入門」を全学共通科目で開講し、授業評価アンケートにおいても高評価を得ている。

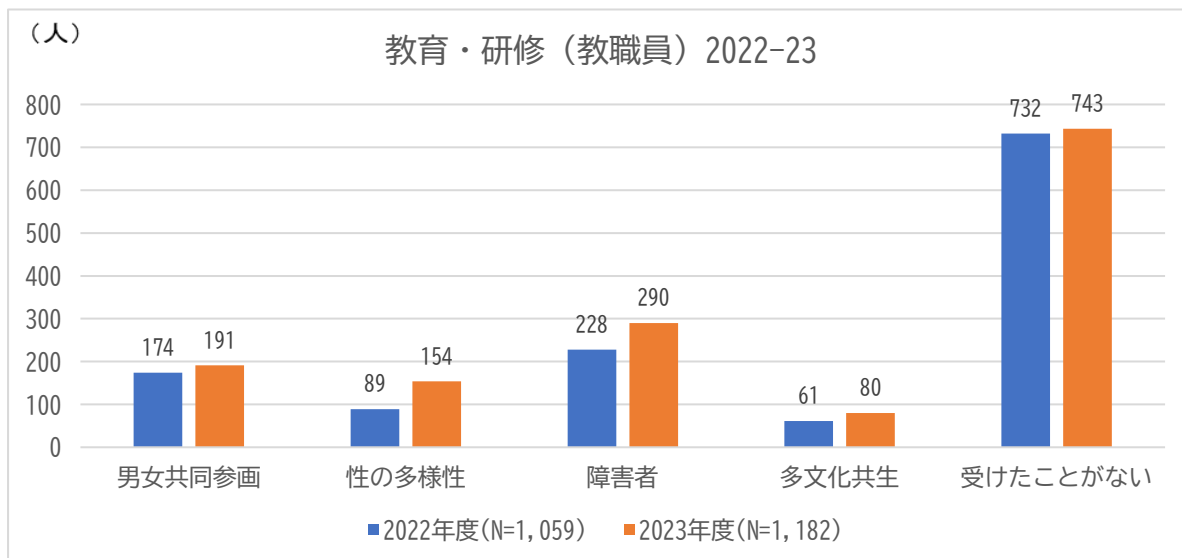
過去1年以内の学習経験について、「男女共同参画」「性の多様性」「障害者」「多文化共生」「受けたことがない」の項目を複数回答でたずねたが、「受けたことがない」との回答が、学生で1,159人（55%）、教職員で743人（63%）を占めた。

学生では、障害者（558人）、性の多様性（557人）、男女共同参画（543人）、多文化共生（435人）の受講経験があり、教職員では、障害者（290人）、男女共同参画（191人）、性の多様性（154人）、多文化共生（80人）の受講経験を回答した。昨年度との比較では、学生では、4項目の研修はいずれも減少している。教職員は4項目の研修がいずれも増加している。特に「性の多様性」研修経験は、1.7倍に増加しているものの実数が「多文化共生」研修経験とともに他に比して少ない。

【学生】 2022-23年度比較



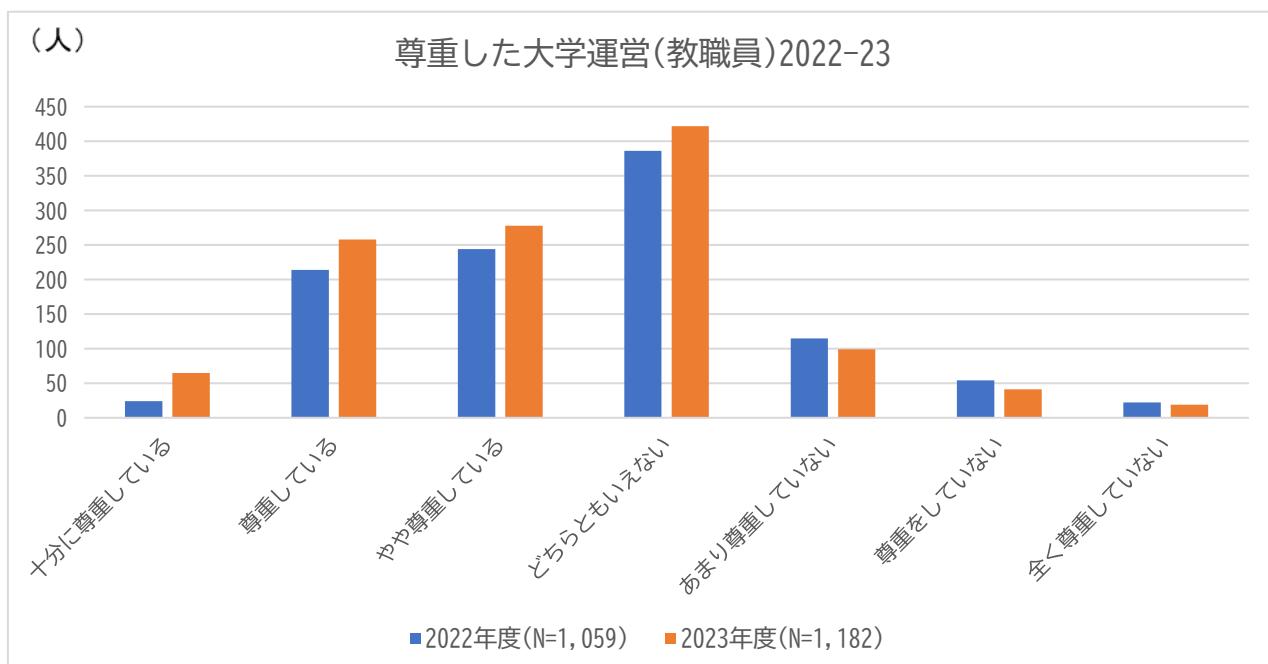
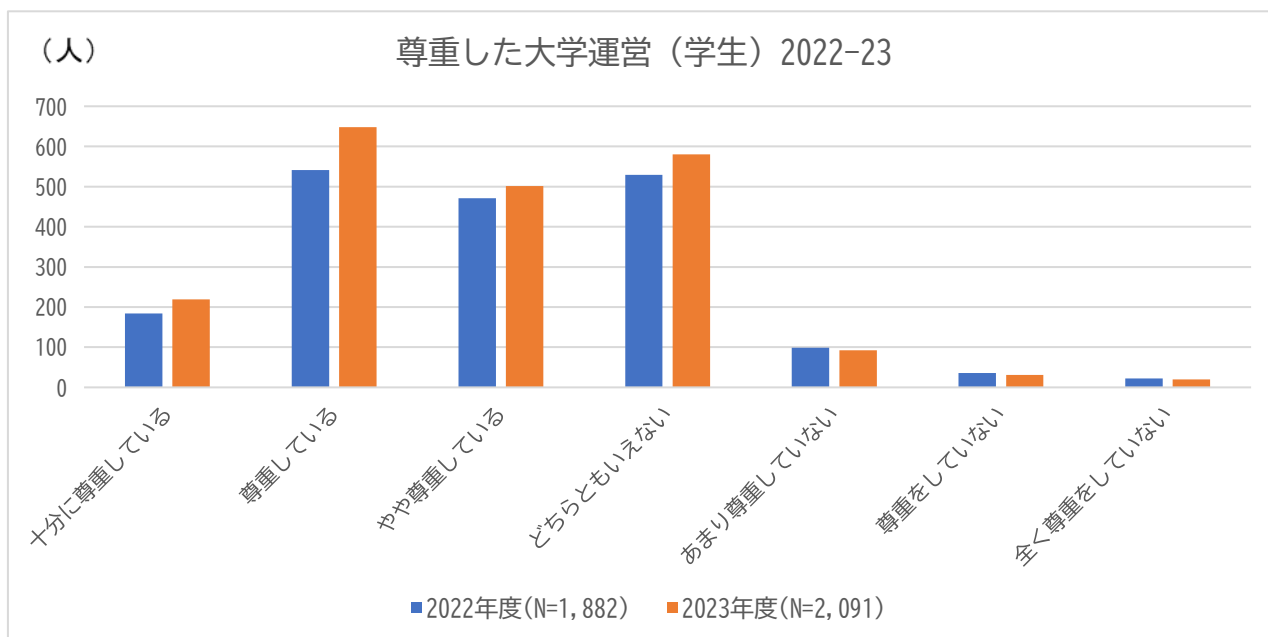
【教職員】



2-5. D&Iに基づいた大学運営

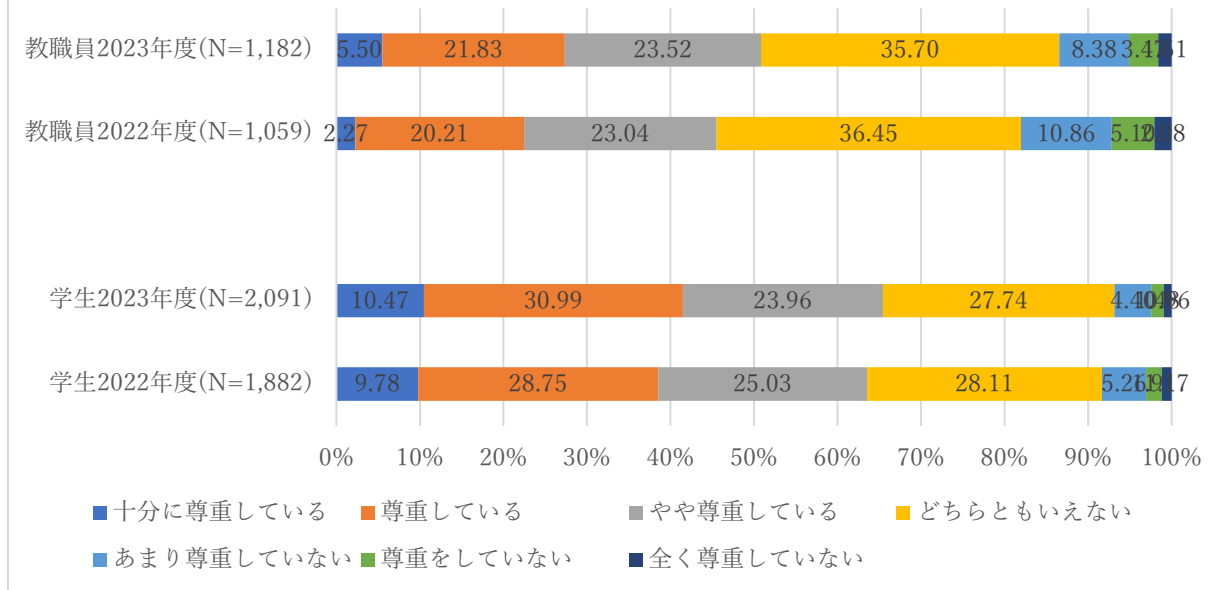
「香川大学は、構成員（学生・教職員）の多様な構成や価値観、考え方を尊重した運営をしていると考えているか」という設問に対し、回答の肯定的バイアスを抑制するために、「十分に尊重している」から「全く尊重をしていない」の7段階でたずねた。

学生の回答は、「十分に尊重している」（10%）、「尊重している」（31%）、「やや尊重している」（24%）であった。一方、「あまり尊重していない」、「尊重をしていない」、「全く尊重をしていない」の合計は、7%だった。教職員の回答は、「十分に尊重している」（5%）、「尊重している」（22%）、「やや尊重している」（24%）であった。一方、「あまり尊重していない」、「尊重をしていない」、「全く尊重をしていない」の合計は、13%だった。学生に比べ教職員の方が、「尊重している（十分に尊重～やや尊重）」と回答する割合が低い。全体では、尊重している傾向と答える構成員は、増加傾向にある。



昨年度と回答比率の比較を行ったところ、学生、教職員共に「尊重している」という肯定的傾向が増加した。ただし、学生においては143人、教職員では159人の否定的な回答があった。

学生・教職員の「尊重した大学運営」に関する回答2022-23



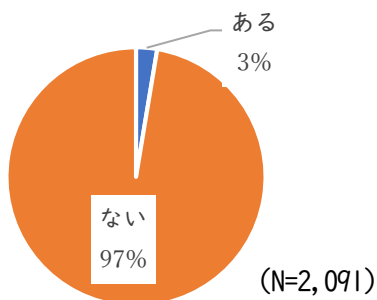
2-6. 男女共同参画に関する学内での差別的な言動の体験や見聞きしたことの経験

2-6以降は、「D&I推進に向けてのガイドラインの4分野」に沿って質問をし、具体的な記述欄（非公開）を設けた。また、男女共同参画、性の多様性の尊重、多文化共生に関しては、併せて学内の相談窓口の利用の有無とその理由（非公開）を尋ねている。

「男女共同参画に関して、学内で差別的な言動の体験、見聞きしたことがありますか」という設問に対し、「ある」と回答したのは、学生55人（3%）、教職員122人（10%）であった。また、「その際、学内の相談窓口を利用しましたか」という設問に対し、「利用した」と回答したのは、学生4人（7%）、教職員4人（3%）であった。

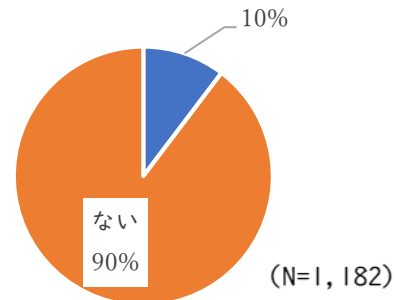
【学生】

男女共同参画に関する 差別的言動の体験・伝聞



【教職員】

男女共同参画に関する 差別的言動の体験・伝聞

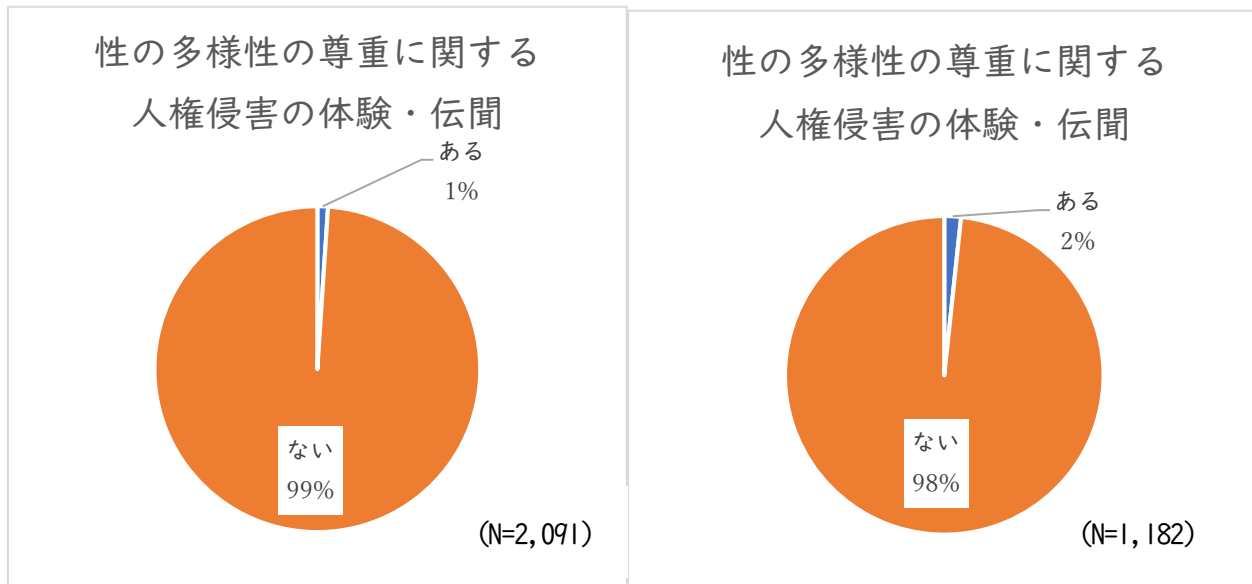


2-7. 性の多様性の尊重に関する学内での人権侵害の体験や見聞きしたことの経験

「性の多様性の尊重に関して、学内で、人権侵害を体験、見聞きしたことがありますか」という設問に対し、「ある」と回答したのは、学生22人（1%）、教職員20人（2%）であった。また、「その際、学内の相談窓口を利用しましたか」という設問に対し、「利用した」と回答したのは、学生1人（5%）で、教職員はいなかった。

【学生】

【教職員】

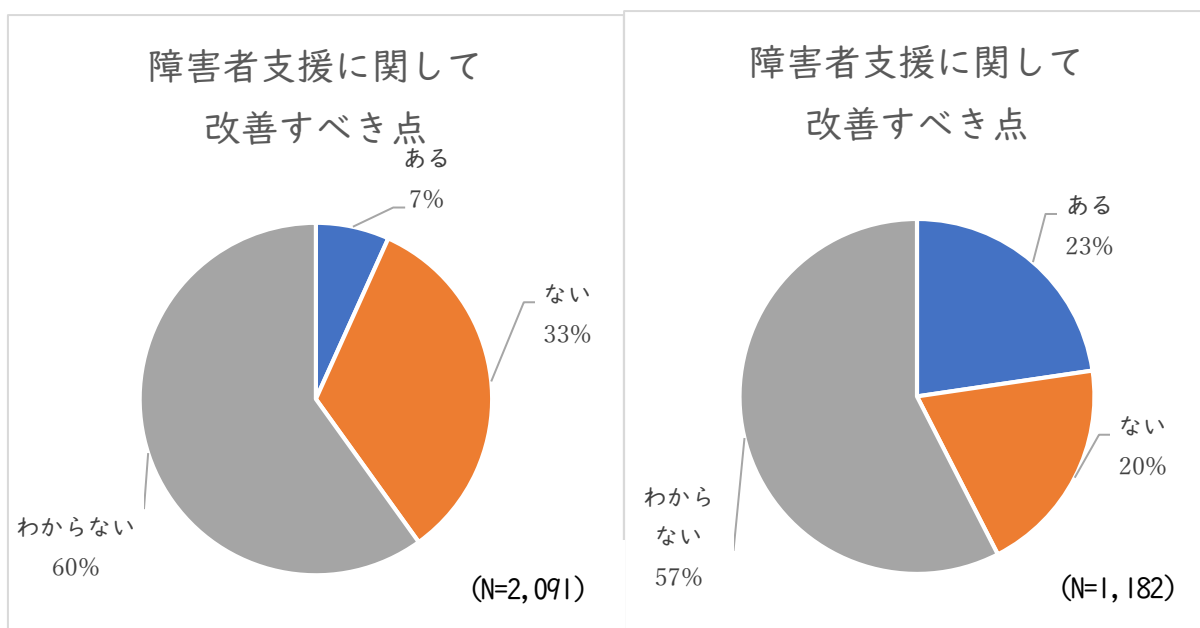


2-8. 障害者支援に関する学内での改善点

「障害者支援に関して、学内で改善したらよいと思うことがありますか」という設問に対し、「ある」と回答したのは、学生141人（7%）、教職員268人（23%）であった。

【学生】

【教職員】

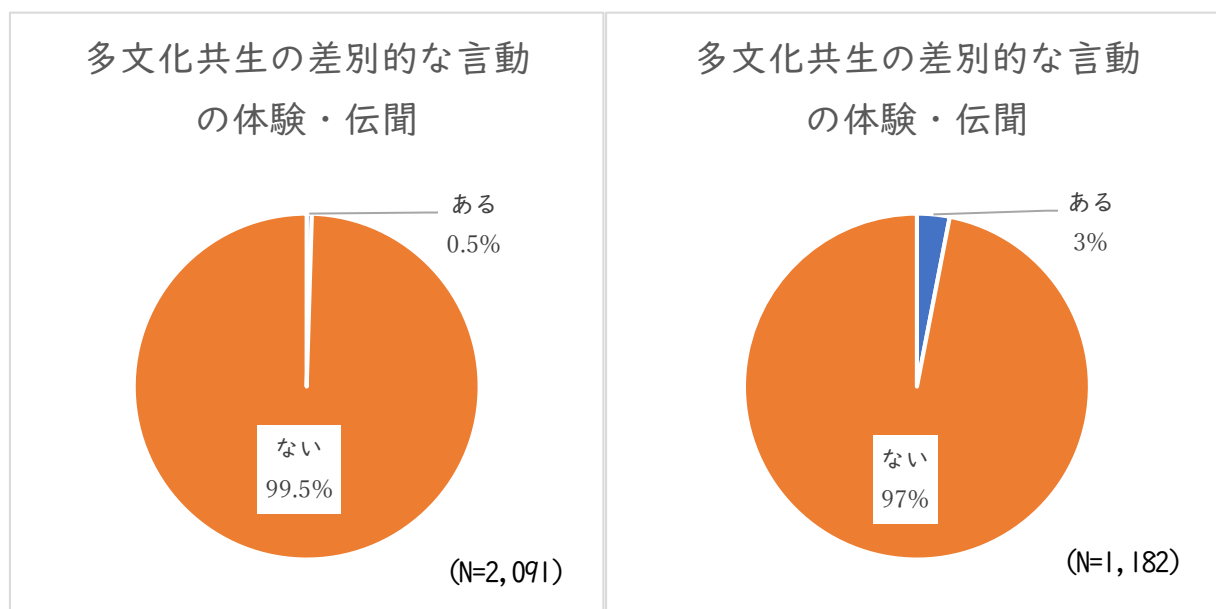


2-9. 多文化共生に関する学内での差別的な言動を見聞きしたことの経験

「多文化共生に関して、学内で、外国人留学生や外国人教員、その外国文化に対する差別的な言動を見聞きしたことがありますか」という設問に対し、「ある」と回答したのは、学生10人(0.5%)、教職員36人(3%)であった。また、「その際、学内の相談窓口を利用しましたか」という設問に対し、「利用した」と回答したのは、学生1人(10%)で、教職員はいなかった。

【学生】

【教職員】



3. おわりに

昨年に続き、2回目の全学調査を終え、D&I施策の課題が明らかになった。

学内施策の認知度は、昨年度は半数以下であった「大学の宣言や基本方針」、「ダイバーシティ推進室」について、6割を超えた。新入生オリエンテーション、新任教職員研修、学生TA研修、D&I関連科目の受講者増などでD&I推進に関する周知機会が増えたこと、バリアフリー支援室、国際化オフィス、保健管理センターなどの連携体制が整いつつあることがその要因と考えられよう。D&Iに基づいた大学運営が行われているかの質問への回答は、昨年度に比べ、肯定的な回答が増加していることから、多様性を尊重するとした大学運営の効果が一定程度表れている可能性がある。

今年度の調査では、ガイドラインの4分野に沿って記述欄を設け、同時に学内の相談窓口の利用有無についての設問を設けた(障害者支援を除く)。男女共同参画、性の多様性の尊重、多文化共生のいずれの分野においても、実際差別的な言動を見聞きしたことがあっても、相談になかなかつながらない・つなげられない現状が明らかになった。相談窓口を利用しないことについては、今後の検討課題とするが、中でも、性の多様性については、相談窓口が未整備であるため、今後は、専門家と協働して相談体制を検討し、性の多様性の尊重へ向けての情報提供も積極的に行っていく。また、各分野の記述欄に書かれた差別的な言動の体験、見聞きしたことについては、D&I推進に向けて、今後各室が連携し対応していく必要がある。

なお、4分野の中で記述欄の回答が多かったのが、障害者支援であった。このため、今年度のD&Iフェスタでは、障害者支援をメインテーマとし、学内の関係部署と連携をしながら、講演会等を実施する予定である。